

ハーモニー

Harmony

第88号 2022年6月15日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations

Japanese Association of Yogo Teacher Education

(一社) 日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

TEL 03-6824-9398

FAX 03-5227-8631

振替口座：00880-8-86414

jayte-post@bunken.co.jp

目次

第30回学術集会(ハイブリッド学会)のご案内(第3報) …… 1
学会設立30周年記念事業の企画等について …… 2
各委員会の活動について(ご報告) …… 3
【会員交流】保健室でのあの「一言」 …… 4
特別企画「新・私の実践と研究」④ …… 5
第29回学術集会投稿奨励研究の選定報告 …… 6

2023年度「研究助成金研究」を募集します …… 6
投稿論文の募集 …… 7
理事会議事録(要旨) …… 7
日本養護教諭関係団体連絡会の取組について(ご報告) …… 7
事務局より …… 8
編集後記 …… 8

第30回学術集会(ハイブリッド学会)の ご案内(第3報)

学会長 山崎隆恵 (北海道教育大学札幌校)

雨後の緑が目には鮮やかな季節となり、会員の皆様におかれましては子どもたちの健康を支え護る活動に尽力されていることと拝察します。新型コロナウイルス感染症は、現在は落ち着きつつも向暑の時期は熱中症との見極めが懸念され、また今後の感染状況も予断を許しません。このため、第30回学術集会は札幌市に会場を置き、ハイブリッド学会と致します。

メインテーマは、「職制80年を経た今、養護教諭の実践の可視化について探究する」とし、学会設立30周年記念集会和同時開催することになりました。養護教諭は子どもたちの多様化する問題を前に、何に焦点を当てて実践を行っていくのか常に考えなければなりません。今回一つの手がかりとして「実践の可視化」から考え、心身の健康課題の複雑化や先が見えない状況が続いている感染症への対応を乗り越えていきたいと思えます。

会期は北海道の冬の入り口のため、会場は札幌中心部にしました。そしてオンラインで札幌と全国を皆様の議論でつなぎます。学会設立30周年記念行事を通して、学会や養護教諭のこれまでとこれからを考える機会とします。多数のご参加を心よりお待ちしております。

1. 期 日:2022(令和4)年12月3日(土曜日),4日(日曜日)
2. 会 場:札幌市教育文化会館(オンラインでの配信も予定)
〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目
TEL:011-271-5821

アクセス:地下鉄東西線 西11丁目駅から徒歩6分

3. 学会長:山崎 隆恵(北海道教育大学)
4. メインテーマ:「職制80年を経た今、養護教諭の実践の可視化について探究する」
5. 内 容:学会長講演,特別講演,シンポジウム,学会助成金研究発表,一般口演,ポスター発表等
学会設立30周年記念行事
6. 演題申込締切:2022年7月30日(土)
抄録原稿締切:2022年8月31日(水)
7. 参加費(11月15日までの申込者に抄録集事前送付)※
会員4,500円 会員外5,000円
学生2,000円(社会人大学院生を除く)
抄録集のみ2,500円(送料込み)
※直前申し込みも受け付けますが、抄録集送付は後日です。
8. 情報交換会、30周年祝賀会:詳細未定
9. 参加申込:ホームページをご参照ください。

<連絡先>

日本養護教諭教育学会第30回学術集会事務局

E-mail:jayte30.2022@gmail.com



学会設立30周年記念事業の企画等について

理事長 後藤ひとみ

1992年11月21日に設立された本学会（当初は「全国養護教諭教育研究会」、1997年4月1日より「日本養護教諭教育学会」に改称、2020年11月6日に「一般社団法人日本養護教諭教育学会」として成立）は、2022年に設立30周年を迎えました。

10年前の2012年は、20周年（人間で言えば20歳）という節目であったことから、6年がかりで100万円の予算を積み立て、『学会設立20周年記念誌』の編纂を中心として日本養護教諭教育学会の「20年間のあゆみ」を振り返り、さらに、学会名に冠している養護教諭教育の枠組みを考えるために「学術集会における一般演題の領域区分」を提示したり、『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第二版＞』を発行したりしました。加えて、第20回学術集会の場で学会設立20周年記念集會を同時開催し、記念特別講演、常設展示、ミニシンポジウムなどを行いました。

設立30周年の記念事業については、主に20周年以後の10年間のあゆみに焦点をあてることとし、理事長、総務委員会、広報委員会が構成した「学会設立30周年記念事業準備委員会」を二度開催して企画案を第2回理事会（2022年4月17日）に諮り、提案内容の承認を得て、改めて「学会設立30周年記念事業実行委員会」（略称：30周年実行委員会）を設置して具体化を進めているところです。

下記が企画の柱となりますが、詳細については決まり次第学会HPでお知らせいたします。

1) 学術集会での記念式典・特別講演・祝賀会の開催

学術集会第一日目（2022.12.3（土））の最初は開会行事と合わせてささやかな記念式典（記念行事）を予定しています。学会設立20周年以後の歩みを中心に、この10年間における本学会の事業を概観したり、30周年記念事業の企画全体について紹介したりする予定です。

特別講演は、第30回学術集会との共同企画で開催します。講師は社会派ミステリ作家の大門剛明氏です。小学校に勤務する養護教諭を取り巻く殺人加害者家族の苦悩と救いを描いた『この歌をあなたへ』の著者として、学校や養護教諭について語っていただきます。ご期待ください。

2) 学術集会での記念展示の開催

20周年記念時に準じて、30年分の「学会誌」、「学術集会抄録集」、「ハーモニー」、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」、『学会設立20周年記念誌』を現物展示し、解説パネルを掲示する予定です。

3) 会員による「3分スピーチ」の公開

養護教諭のこと、本学会のことなど、事前に設定した3つほどのテーマから会員ご自身が選択し、3分以内でスピーチを行っていただくという斬新な企画です。映像はご自身で撮影する、実行委員がZoom撮影するなどを考えていますが、第30回学術集會会場での公開方法、募集時の個人情報の扱いや倫理的配慮に関する確認事項などを理事会で検討した上で、募集期間や収録方法などの詳細は学会HPやメーリングリストでお知らせします。ご覧いただきまして、是非、ご応募くださいますようお願いいたします。

4) 学会設立30周年記念誌の発行

経費を勘案して、50頁程度の体裁でまとめる予定です。学術集會で行われる上記1)～3)の取組も写真とともに掲載しますので、発行は2023年2月～3月の見込みです。

5) その他

学術集會会場での交流型の企画も考案中です。今後の広報にご注目ください。

学会HPの「発行物」をクリックしていただくと、『学会設立20周年記念誌』の全文が掲載されています。

学会の歩みや学会の事業等に加えて、学会設立20周年記念事業のことも紹介されていますのでご一読いただければ幸いです。



◇◇ 各委員会の活動について(ご報告) ◇◇

前期理事会からの引き継ぎ事項であった「委員会規程」の改正を行い、学会活動委員会を廃止して広報委員会を新設するなど、学会活動を支える委員会活動の整備を行いました。今期における各委員会の運営方針等は下記のとおりです。

委員の選出は、旅費予算の都合で理事が委員であった前体制を改め、Web会議の活用を前提として、理事は2名程度に留めて評議員や会員の参加を増やしました（委員会の委員は、原則、代議員の中から理事長が委嘱する。ただし、委員長の判断により、代議員以外の正会員から委員の登用が必要な場合には、理事会の承認を得て、委嘱できるものとする。「委員会規程」第1条第5項より）。

委員の任期は役員に準じて2024年9月までとなります。今後とも、委員会活動へのご支援の程をお願いいたします。

◆総務委員会

委員長：大川尚子総務担当常任理事（京都女子大学）

委員：浅田知恵理事（愛知教育大学）

加藤晃子理事（滝学園滝中学校滝高等学校）

岩崎和子（関西福祉科学大学）

上原美子（埼玉県立大学）

<運営方針・課題>

- ①理事会の開催・運営、議案・議事録作成等
- ②代議員総会の開催・運営、予算案・議案書作成等
- ③ハーモニー及び学会誌への理事会議事録及び代議員総会議事録の掲載
- ④定款に基づく諸規程の整備
- ⑤事務局（国際文献社）との連絡・調整

<開催した委員会>

- 第1回総務委員会（2022年2月11日（金）、Web会議）
- *審議事項 ①総務委員会の役割の確認 ②学会設立30周年記念事業の記念式典・特別講演・祝賀会について（特別講演の講師の検討）

◆学術委員会

委員長：鈴木裕子学術担当常任理事（国土館大学）

委員：工藤宣子理事（千葉大学）

籠谷恵（東海大学）

中森あゆみ（元武庫川女子大学大学院生）

<運営方針・課題>

- ①第29回、第30回学術集会の一般演題傾向の分析と区分の更なる検討（養護教諭教育を構成する要素を明確にして周知を図り、養護実践の根拠となる学問体系の確立を目指して更なる検討を進める。）
- ②助成金研究及び投稿奨励研究の選定と支援（過年度助成金研究代表者、投稿奨励研究代表者への連絡と発表及び投稿への支援を行う。）
- ③学術集会実行委員会との連絡調整、「申し送り事項」の充実・徹底
- ④会員の研究支援や研究活動の活性化に向けた検討等
- ⑤学術事業及び養護教諭の専門領域に関する用語に関する対応

<開催した委員会>

- 第1回学術委員会（2021年12月25日（土）Web会議）
- *報告事項 ①新学術委員会委員の自己紹介 ②委員会規程及び学術委員会の運営方針と課題 ③今後の予定の確認
- 第2回学術委員会（2021年12月26日（日）～2022年1月12日（水）メール会議）

*審議事項 ①投稿奨励研究の推薦について

◆編集委員会

委員長：山崎隆恵編集担当常任理事（北海道教育大学）

委員：西岡かおり理事（四国大学）

青柳千春（高崎健康福祉大学）

今富久美子（神奈川県立藤沢工科高等学校）

高田恵美子（畿央大学）

留目宏美（上越教育大学）

中川優子（藤沢市立鶴沼中学校）

山本訓子（関西福祉科学大学）

<運営方針・課題>

- ①編集委員会の体制を更に整備（編集事務局を留目委員の研究室に置く。学会誌発刊作業のための編集小委員会を第1号は留目委員、第2号は青柳委員のもとに置く。ハーモニー発行は委員会全体で担当し、主担当は西岡理事と山本委員とする。）
- ②学会誌の年2回発刊スケジュール（3月末と9月末）は変更なし
- ③学会誌に定時総会（代議員総会）議事録や理事会議事録を掲載
- ④機関紙「ハーモニー」の発行時期（年3回）は学術集会の開催などに合わせて変更予定

<開催した委員会>

- 第1回編集委員会（2022年1月23日（日）、Web会議）
- *報告事項 ①新編集委員会委員の自己紹介 ②第VIII期（2018.4～2021.10）編集委員会の申し送り事項（学会誌第25巻第1号発刊の総括含む） ③第1回理事会（2021.12.18）で提案した編集委員会の運営方針と課題
- *審議事項 ①新編集委員会の体制と役割分担 ②ハーモニー第87号の企画、第88号・第89号の発行スケジュール ③投稿論文の取り下げへの対応 ④到着受理論文（1件）の査読者 ⑤学会誌第25巻第2号の発刊にむけて（構成、編集日程と発刊作業の進め方、投稿論文査読の進捗状況と論文の掲載可否と原稿種類の決定）
- 第2回編集委員会（2022年4月10日（日）、Web会議）
- *第1回議事録の確認
- *審議事項 ①学会誌第25巻第2号発刊に関する総括 ②学会誌第26巻第1号の発刊にむけて（構成、編集スケジュール、投稿論文の状況、査読の進捗状況、特集企画） ③小委員会業務の確認（組織図） ④ハーモニー第88号の企画

◆広報委員会

委員長：塚原加寿子(広報担当常任理事(新潟青陵大学))

委員：外山恵子(理事(愛知県立日進西高等学校))

平井美幸(大阪教育大学)

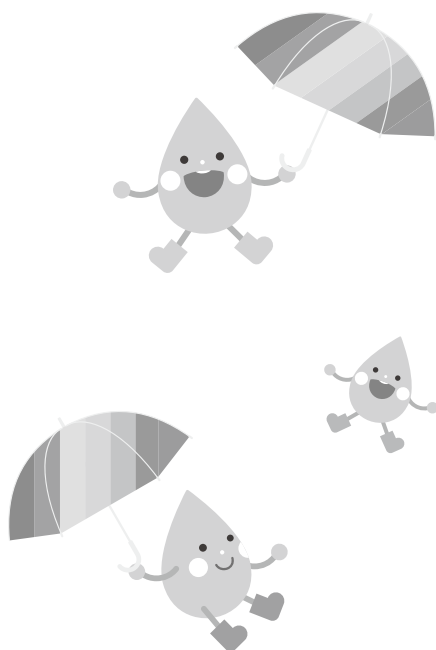
三森寧子(千葉大学)

<運営方針・課題>

- ① 養護教諭教育(養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動)を構成する「養護教諭の実践」・「養成教育」・「現職教育」を柱とした広報活動のあり方を検討
- ② 学会所有の知的財産(『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集』、『日本養護教諭教育学会誌』の一部など)のデジタルデータ化や公開方法について検討
- ③ 学術集会の広報活動を行い、学会誌や機関紙などの発行物を宣伝
- ④ 学会ホームページの管理・更新によるタイムリーな情報提供(学会行事に伴う定期的なHP更新、随時のHP更新、養護教諭教育に関わる最新情報のHP掲載など)
- ⑤ 情報・通信システムを活用して広く情報提供
- ⑥ メール等を活用した会員への情報発信(事務局と連携して会員メーリングリストの作成、学術集会・研修会・施策に関わるパブリックコメントなどの情報発信)

<開催した委員会>

- 第1回広報委員会(2022年1月25日(火)Web会議)
* 審議事項 ① 広報委員会の役割の確認 ② 年間計画の作成と役割分担 ③ HPの更新について ④ 30周年記念事業について



【会員交流】保健室でのあの「一言」

子どもや教職員、保護者からかけられた一言。ふとした一言に、大切なことに気付かされたり、学んだりしたことはありませんか。そんな「一言」を綴ります。

「先生がいてくれたからこそ、 6年間毎日安心して学校に来ることができました」 齋藤 佳奈(徳島市助任小学校)

この言葉は、前任校で卒業を控えた6年生の女の子が言ってくれた一言だ。

前任校の小学校では6年間勤務した。その間、子どもの健康を守りたいと思い、必死に働いた。しかし、どんなに頑張っても、自分がやっていることに自信が持てず、もっと優秀な養護教諭だったら子どもにとってよいのではないかと不安な気持ちが常にあった。だからこそ、この一言を耳にしたとき、自然と涙が溢れてきた。

また、初めて研究発表会で単独で授業公開することになり、これまで、授業公開をしたことがなかった私は、とても不安で通常業務をしながら、一生懸命授業準備に取り組んだ。研究発表会前日の給食の時間、いつものように放送委員会の子どもによる校内放送が始まり、突然、「今日は何の日でしょうか？」というクイズが始まった。職員室では「研究発表会の前日」と答えている教員もいた。すると、「今日は、保健室の佳奈先生のお誕生日です。いつも笑顔で優しい佳奈先生が大好きです。佳奈先生、お誕生日おめでとうございます。」と放送が流れた。研究発表会準備に追われ、自分の誕生日だったことも忘れていたので、心から嬉しく思った。それから、毎年、誕生日になると子どもたちが保健室を訪れ、歌を歌ったり、手紙をくれたりして、祝ってくれるようになった。ある年、毎年祝ってくれることが申し訳ないと感じ、子どもたちに「もう齋藤先生のお誕生日のお祝いしなくていいよ。」と言った。すると、「けがをした時や元気がない時、佳奈先生の笑顔を見ると安心して、元気になる。大好きな佳奈先生のお誕生日お祝いしたい。」と言ってくれた。私(養護教諭)がいることで、安心して学校生活が送れる、先の6年生の言葉と通ずるものがあり、養護教諭が学校に存在する意義を考えさせられた。

私は、養護教諭は全校児童の「担任」だと思っている。いざという時のために、学年学級に関係なく、日頃から子どもと積極的に関わり、子どものことをよく理解しておくことを大切にしている。保健室に来室する子どもは限られているため、より多くの子どもと関わるためにも、積極的に保健教育にも参画している。体育科保健領域の授業をすること

により、保健室によく来る子どもの教室での様子が分かる。また、普段は保健室に來ない子どもとも関わるができる。実際に、授業がきっかけとなり、子どもが來室しやすい保健室となったと感じる。

この4月から、現任校の子どもとの関りがスタートした。これまで通り、誰もが安心して学校生活を送ることのできる環境を作っていきたい。

「なんであの子は毎日保健室にいるの？」

長谷川 由紀（新潟市立浜浦小学校）

膝の擦り傷で來室した中学年の男の子が、相談コーナーにいる保健室登校の女の子を見つけて、無邪気に発した一言だった。相談コーナーの女の子が身を縮める気配を感じた。こういう場面の声は、なぜかとてもクリアで、大きい。私は即答できずにいた。そういえば前に來室した際もこの男の子は相談コーナーを気にしていたなと思い出しながら、「調子がよくないから今は保健室で過ごしているよ。」と少し間をあけて答えた。すると、「そうなんだ。勉強しないの？」と返ってきた。個人情報話を話すわけにはいかないし、嘘もいけない。そこで、「体調に合わせて頑張っているよ。」と曖昧に答えた。男の子は、腑に落ちない顔で「ふーん。僕も保健室にいたい。いいなあ。」と、大きな声で言い去って行った。そと相談コーナーを覗くと、注目的になった女の子が暗い表情でうつむいていた。

子どもが保健室を居場所として選択した場合、まずは、その子との関係づくりに注力しながら、安心して過ごせる環境を整えることを大切にしている。前述の女の子は、他の子どもと会いたくない気持ちが強かったため、相談コーナーをパテーションで区切って居場所を作った。しかし、他の子どもとの関わりを遮断することなどできないことをこの一言から実感した。

一方で、他の子どもと関わりが生じることが「よさ」であることも、この女の子のつぶやいた「いろんな人がいるんだね」の一言から気付かされた。彼女は、どうやら保健室で過ごした日々の中で自分以外にも様々な困り感をもった子どもがいることを感じ、「自分だけじゃない」という気付きを得たようだった。

冒頭の一言からの出来事を通して、保健室は多様な子どもが集まる場所であることを再確認するとともに、保健室の在り方を全校の子どもに知ってもらふ必要性に気付かされた。以来、けがや体調不良の時だけでなく、心が不調な時にも利用できる部屋であることを発信している。必要な時に保健室を利用でき、教室以外の部屋を居場所とする子どもへの理解が深まることを願っている。

ちなみに、冒頭の一言をきっかけに、「答え方」について保健室登校の子どもと相談するようになった。保健室はいろいろな子が來室するよ。あなたのことを心配に思ったり、興味を持ったりして、なぜ保健室にいるのと聞いてくる子もいるかも。そういう時、どう答えようか、と。保健室に來る意味が分かり、來ている子どもの安心感につながる答えを、私は未だ探し続けている。

特別企画 「新・私の実践と研究」 ④

修学旅行における保健教育の実践

橘 晴子（阿南市立長生小学校）

修学旅行は児童が楽しみにしている教育活動(学校行事)である。多くの児童が楽しく有意義な修学旅行にしたいと思っていることから、この機会に自己実現のための基盤となる心身の健康の大切さに気付かせたり、健康的な行動実践への意欲を高めたりする保健教育を行うことは効果的であると考える。

そこで、修学旅行における保健教育の充実を図り、主体的な心身の健康管理や健康的な行動選択ができる力を育めるよう養護実践を行うこととした。

1つめは、児童自身が記入する健康調査の実施である。健康管理は自分で行うもの(自分事)として捉えさせるために、保護者に任せがちな自分の体調管理や持参する薬について考えさせ、保護者が記入する調査とは別に、児童自身が記入する健康調査を実施した。修学旅行に際して心配なことを記入する欄からは、保護者の調査では把握しきれなかった児童の本音を知ることができ個別指導につなげることができた。

2つめは、学級活動等の時間に行う保健に関する指導である。心身の健康は、楽しく有意義な修学旅行(自己実現)の基盤であることに気付けるよう、健康管理の仕方、入浴における注意、心(脳)と体の成長、月経指導(女子)、感染症対策、熱中症対策、食物アレルギー指導等を行った。

心(脳)と体の成長についての指導では、思春期は体の成長とともに心(新しい脳)が発達する時期であることをおさえ、心を発達させるのは様々な経験や学習であり、修学旅行はその機会であることを理解させ、決まり・マナー・友達への思いやりを忘れず心を成長させる修学旅行にしてほしいと伝えた。

これらの指導内容は保護者に知らせ、修学旅行が自立に向けてのよい機会となるよう家庭での協力を求めた。

3つめは、生活リズムチェックの実施である。主体的な健

健康管理の実践化を図る機会として体調を整えるために修学旅行1週間前から、生活リズムチェックを行った。

4つめは、保健係への指導である。班の友達の健康観察を行う意義やポイントを説明し、健康は自分で守るだけでなく、みんなで守るものであることを理解できるようにした。

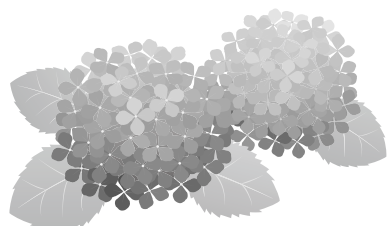
5つめは、個別指導である。健康調査から体調の不安だけでなく、友人関係や家族から離れて宿泊することへの不安等のある児童がいることが分かったので、担任と役割分担を行い個別指導で不安克服のための対策を児童とともに考えた。

学級活動等の時間で実施した指導の後、楽しく有意義な修学旅行にするために大切だと思うことを記述させ、その内容を分類したところ、「協力・思いやり」は43%、「健康行動・自己管理」は45%でどちらかあるいは両方を記述していた児童は71%だった。具体的な健康行動を記述している児童からは行動化への意欲がうかがえた。

修学旅行後の振り返りでは「健康安全に気を付けた行動」は86%が、「友達と仲良く」「感謝の気持ちをもつ」は9割以上が達成できていた。「思いやり・協力・マナー」の指導は学級担任が主として行うものだが、養護教諭の立場で心(脳)の働きや発達の学習を加えることで、より意識させることができたと思われる。

以上のことから、修学旅行における保健教育で様々な内容を取り上げ充実させることは、心身の健康の大切さを理解させ主体的な健康行動への意欲や行動化を促すために有効であると考えている。ここ2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊を伴わない日帰り旅行となっており、感染症対策に重点をおいた指導を行っている。この指導では、教師の目が届かない学校以外の場面(放課後・休日等)でも感染予防に努めることができ、安心・安全な修学旅行にするために進んで感染予防対策がとれる児童を目指して担任等と連携して実施している。

退職が近づき、修学旅行の引率もあと数回となった。児童を取り巻く状況は変わっても、価値ある修学旅行となるよう関係職員と連携し、保健管理・危機管理・健康相談を行うとともに、児童に主体的な健康管理や健康行動ができる力を育むための保健教育の実践研究に努めたい。



第29回学術集会投稿奨励研究の選定報告

学術担当常任理事 鈴木裕子

本会では学術集会で発表された一般演題の中から学会誌への投稿にふさわしい研究を「投稿奨励研究」として選定し、学会誌への投稿をお勧めしています。特典として投稿時の査読費用8,000円を免除し、学会誌掲載時には「投稿奨励研究」であることを明示します。特に現職養護教諭による論文投稿の活性化をめざしており、これまで複数の優れた研究が学会誌に掲載されてきました。

昨年11月末に開催された第29回学術集会においても、内規に基づいて学術集会学会長、座長、理事の皆様にご推薦をいただき、理事会にて次の2件が選定されました。

*三宅なつみ会員

「小学校養護教諭の困難感からみた不登校支援の探究」

*安田祥子会員

「養護教諭が解決志向アプローチの技法を自分自身に用いることの可能性 —『例外探し』をもとにしたロールプレイ研修を通して—」

第30回学術集会の一般演題につきましても同様の方法で選定・奨励を予定しております。養護教諭の資質向上につながる多数の研究のご発表を期待しております。

なお、過去に投稿奨励され未投稿の研究につきましても投稿を歓迎します。お気軽にご相談ください。

2023年度「研究助成金研究」を募集します

学術担当常任理事 鈴木裕子

本会における研究助成は、会員が行う特色ある研究に対して一件10万円、期間1年間の助成を行うものです。期日までに所定の方法で申請のあった中から、選定基準に基づいて選定を行います。

本会の正会員のみ応募資格があります。選定にあたっては、研究目的が本会の目的(養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動)に沿っているか、研究の独自性があるかなどを選定基準に沿って審査します。

2022年度は、「教員育成指標に基づく養護教諭のミドルリーダーコンピテンシー・モデルの開発」(研究代表者:大阪教育大学平井美幸会員)に対して助成を行っています。

2023年度の申請期限は9月10日(土)です。詳細は本学会ホームページ及び学会誌第25巻第2号p.115にてご確認ください。多数のご応募をお待ちしております。

お問い合わせ: ☎ 154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1
国士館大学文学部 鈴木裕子

メールアドレス: suzukiyu@kokushikan.ac.jp

投稿論文の募集

編集委員会事務局 留目宏美

本学会誌は、養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与することを目的に、1年間に2回(9月末及び3月末)発行しています。会員の皆様からの投稿論文によって、本学会誌は支えられています。コロナ禍以降、投稿論文の数は増えていきます。投稿に関心をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。引き続き、多くの会員の皆様の投稿をお待ちしています。

論文投稿に高いハードルを感じておられる方もいらっしゃると思いますが、是非チャレンジいただきたいと願っています。本学会誌に論文が掲載され、発行されると、養護教諭教育に関心を寄せる多くの方々が、検索エンジンを通して、論文を読むことができます。IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出し、様々な課題や困難の克服をめざす Society 5.0の到来を受け、会員の皆様には、論文投稿を通して知を拡張させ、新たな価値創造にまい進していく一翼を担っていただきたいと願っています。

なお、論文を投稿される際には、以下についてご留意ください。

◆「投稿規程」及び「投稿原稿執筆要領」に沿わない論文の投稿が目立つようになりました。学会誌の巻末に掲載しています。熟読の上、的確に反映していただくようお願いいたします。

◆査読の結果、タイトルを変更していただくケースが目立つようになりました。論文のタイトルはせいぜい10数字でしようか。その中に、鍵となる概念、研究デザインが凝縮されていることが重要です。リサーチクエスチョンを解釈しうるようなタイトルであるとなお良いでしょう。論文のタイトルについて十分に練っていただきたいと思います。

◆査読プロセスにおいて、研究デザインに関する指摘が多くなされています。例えば、仮説が明示されていない、仮説の論拠が示されていない、仮説を立証するための研究方法の妥当性・適切性に疑義が呈されるなどです。論文の肝は、「序論」及び「研究方法」です。研究の前提が揺らいでいれば、「結果」や「考察」の信頼性も低まります。したがって、研究デザインについても十分に精査し、客観的かつ説得的な論述を心掛けていただくと、掲載につながりやすくなります。

◆大幅に頁数を超過している論文が投稿されるケースが見受けられます。論述構成(段落構成を含む)の練りが不十分であるため、記述が繰り返されていたり、冗長になっていたりすることが一因と考えます。出来る限り、頁数を規程内に収めていただくよう、論述構成を吟味していただければ幸いです。改めまして、奮ってのご投稿をお待ちしております。

理事会議事録(要旨)

総務担当常任理事 大川尚子

<2021年度第2回理事会>

1. 日 時:2022年4月17日(日)15:00~17:45

2. 場 所:愛知教育大学内後藤研究室

Web会議システムにて開催

3. 出席者:後藤ひとみ・浅田知恵・加藤晃子・外山恵子

(Webにて出席)植田誠治・大川尚子・鎌田尚子・工藤宣子・

小林央美・鈴木裕子・塚原加寿子・徳山美智子・

西岡かおり・松田芳子・宮本加代子・

山崎隆恵(理事)、河田史宝・古賀由紀子(監事)

欠席者:竹鼻ゆかり

4. 議 題

【審議事項】

- 1) 第29回学術集会の総括および申し送り事項について
- 2) 学術集会発表時の新入会者の年会費徴収について
- 3) 第29回学術集会の投稿奨励研究の選定について
- 4) 「委員会規程」の改正について
- 5) 助成金研究の投稿取り止め申請への対応について
- 6) 学会設立30周年記念事業について

【報告事項】

- 1) 変更登記申請手続きにかかわる関係議事録の提出について
- 2) 新理事・新監事就任に伴う手続き経費について
- 3) 論文投稿時の投稿料種類の変更について
- 4) 各委員会の活動について
- 5) 第30回学術集会の進捗状況について
- 6) 第31回学術集会について
- 7) 日本養護教諭関係団体連絡会の取組について
- 8) 事務局長の委嘱について

日本養護教諭関係団体連絡会の取組について(ご報告)

理事長 後藤ひとみ

本年5月12日(木)に、「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議(第1回)」が開催されました。議題は養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に向けた方策についてで、6月8日現在、議事次第や配付資料が公表(基礎資料は未公表)されています。議事録はまだアップされていませんが、最近の調査研究協力者会議は月1回程度で開催されることが多いので、次回会議で第1回議事録が公表されるだろうと思います。

Web会議ですので、事前登録するとZoomで傍聴することができます。第2回は令和4年6月13日(月)13時00分～15時00分開催、議題は養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上について(予定)です。

委員は9名で、座長は広島文化学園大学・短期大学長の坂越正樹氏が務めています。日本養護教諭関係団体連絡会からは会長の三木とみ子氏、同連絡会代表者会議のメンバーである全国養護教諭連絡協議会会長の小林幸恵氏が参加しています。第1回の資料2「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に向けた論点例」には、「令和の日本型学校教育」において求められる役割について、教職生涯を通じた資質能力の向上に向けた方策について、ICT活用能力の向上のための方策について、各種資格制度による学びの成果の更なる活用について、日常的な資質能力の向上機会の充実について、オンラインを活用した研修の充実方策について等が挙げられています。

日本養護教諭関係団体連絡会は、「これからの養護教諭・栄養教諭の在り方に関する検討会議」に全養連会長とともに同連絡会会長であった本学会理事長が参加し、養護教諭ワーキンググループとして平成29年3月発行の『現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～』の作成に関わりました。その時も今も養護教諭と栄養教諭の課題は常に並んで扱われています。今後に向けては、栄養教諭の課題も理解して共に課題解決に取り組むことが肝要と思います。

事務局より

事務局長 加藤晃子

本年4月17日に開催された第2回理事会で、理事長より私を事務局長に指名したことが報告されました。前期理事会で務めました会計担当の経験をいかして尽力したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

●会費納入について

只今の会計年度は2021年度(2021年10月1日～2022年9月30日までの期間)です。入会・退会の手続きの時期にご注意ください。

なお、年会費が2年分滞った場合は、入金が確認できるまで3年目の学会誌等の発送を見合わせますのでご承知おきください。万一退会される場合は、退会届が提出されていなかった期間にも学会誌等は発送されていますので、2年分の会費は全額お支払いいただくこととなります。

学会は、会員の皆様の会費によって運営されています。

速やかな会費納入や変更が生じた場合の変更届等の提出にご協力をお願いいたします。

●メーリングリスト作成のお願い

広報委員会が中心となって、会員のメーリングリストを作成しています。Eメール登録がお済みでない方は、HPからの入力(変更届フォームあり)、または学会事務局(東京のアカデミーセンター)へのメール・FAXでお知らせください。

●『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第三版>』について

1冊500円(送料別)で販売しています。10冊以上まとめてご注文をいただきますと、送料無料でお送りいたします。会員外の方々に是非お勧めください。

編集後記

今回のハーモニー第88号を発行するにあたり、新年度のご多用のところ記事を書いてくださった皆様に心から感謝いたします。会員交流③では、「保健室でのあの一言」をテーマに心温まるステキなお話と、自分だったらどうするか考えさせられるお話をお寄せいただきました。我々は大学で養護教諭養成に携わっておりますので、この一言に対してどのように対応するか学生達に考えさせたいと思いました。また、新・私の実践と研究④では、楽しく有意義な修学旅行に向けて、様々な取り組みを報告していただきました。読んでくださった皆様も「真似をしたいな」、「私もこんなことしているな」とご自身の実践を振り返られたのではないのでしょうか。

ハーモニーでは、今後も会員の皆様との交流を図りながらお届けしていきたいと思っております。学会事務局にメールにて、日頃の実践や保健室でのエピソード、感想などをお聞かせください。お待ちしております。

(西岡かおり, 山本訓子)

